

## メディカルショートステイ対応機関（事業所、医療機関等）の状況

		横浜市内の地域中核病院等の10病院	厚木市立病院	小田原市立病院	北里大学東病院小児在宅支援センター	【参考】 茅ヶ崎市立病院
所在地		—	厚木市水引1-16-36	小田原市久野46	相模原市南区麻溝台2-1-1	茅ヶ崎市本村5-15-1
併設医療機関の有無		—	厚木市立病院（本体）	小田原市立病院（本体）	—	茅ヶ崎市立病院（本体）
入所定員		—	—	—	・届出病床数は30床。現在の稼働は10床	・小児科20床
短期入所枠の設定状況		空床利用のみ	・定員は設定しておらず、当日の看護師等の態勢、空床ベッドの状況等から利用の可否を判断している	・一般病床の空きを見て決定。月に1～2人程度	・相模原市専用は5床	・小児科20床の空床を利用し、レスパイト入院を実施
対象者		・横浜市内に在住し、在宅で療養する重症心身障害児者で常時医学的管理を要する方	・厚木市に在住している医療ケアが必要な15歳以下の重症心身障害児	・小田原市立病院通院中の患者	・1歳～18歳（高等部卒まで）の原則重症心身障害児（重心認定児）及び重心認定されていない医療的ケアを要する小児	・15歳まで
受入れ困難な状態像	医療的ケア	・NICU退院後で状態が安定しない方など	・状態が安定していない方、人工透析又は腹膜透析の方は利用不可 ・医師が医療上困難と判断した方は利用不可	・小田原市立病院通院中の患者なので特になし	・現に在宅療養している状況であれば医療的ケアの内容で、受入困難とはなりにくい。 ・ただし、在宅での手技、手法と同様に対応するということではない。（診断の上、病棟対応に合わせる場合がある。例：経管栄養の注入の回数や時間など）	・人工透析が必要な方 ・常時、人による監視が必要な方
	ADL面等	・自力歩行が可能な方、つかまり立ちができ、高柵ベッドで対応できない等設置設備で対応できない方など	・利用者はほぼ寝たきりの方を想定しているため、動きのある方については利用困難	・小田原市立病院通院中の患者なので特になし	・「動く（身体機能が比較的良好）医療的ケアを要する小児」＝重心認定の対象外については、ケース・バイ・ケース（病棟の判断）。	・自力歩行が可能な方 ・つかまり立ちができ、高柵ベッドで対応できない等、当院の設備で対応できない方 ・他害等により他の利用者へ危害を加えるおそれのある方 ・自力による移動が可能であるが、危険回避ができない方
申込み受付等		・随時受付。ただし、区役所が開庁している時間に限る	・市役所が開庁している平日8時30分から17時15分まで随時受付している	・受診時もしくは、不可能な時は電話で受け付ける	・当該機関のパンフレット参照	・外来受診し、入院の可否について調整
入退所時間等		・各医療機関が指定する時間	・入退院時間については、受け入れる病院との調整になるため設定していない ・土日祝日の受入はしていない	・10時から11時までに入院。土日は受入れない	・当該機関のパンフレット参照	・基本的に10時30分入院 ※土、日、祝日の受入れは行っていない
その他		・原則として7日以内 ・受入医療機関等への財政的支援有り →「横浜市メディカルショートステイ事業運営委託」として各医療機関と委託契約を締結。事務費は1日あたり2,000円。個室利用時1日28,000円、大部屋利用時1日15,000円（いずれも実績払い）	・利用日数は原則2泊3日。最長6泊7日。 ・介護する家族の体調不良、事故等による負傷等の緊急時、冠婚葬祭を受入要件としている ・受入医療機関等への財政的支援有り 利用日数の実績に応じて、市立病院へ補助している。	・小田原市立病院通院中の患者 ・受入医療機関等への財政的支援無し	・原則、利用を月に8日間としている理由→医療機器を抱えての入退院（来院）は、保護者にとって、困難であるとの声を受け止め、1週間程度と考えた。また、就労している家族が、入退院に対応する場合を考慮し、休みやすい曜日がある想定で、「8日間」とした。 ・受入医療機関等への財政的支援有り 「要医療ケア障害児在宅支援事業」 対象（内訳）：北里大学東病院小児在宅支援センターで行う事業のうち、メディカルショートステイを運営する事業。 補助金額（平成28年度予算）：20,382千円／年（市民専用ベッド確保4床、緊急時利用ベッド1床）	—
メディカルショートステイの実施にあたり課題と考えること		【横浜市】 ・区役所及び局が開庁していない休日や夜間の対応ができない	【厚木市】 ・利用要件の拡大（兄弟の行事ごと等） ・年齢制限の撤廃 ・土日祝日等の緊急時の受入	—	【相模原市】 ・登録はするものの、利用までに時間がかかる。（登録だけで安心して、実際の利用につながらない）。 ・まだ、事業を開始してから1年程度経ったところなので、課題についてはこれからの検証。	—